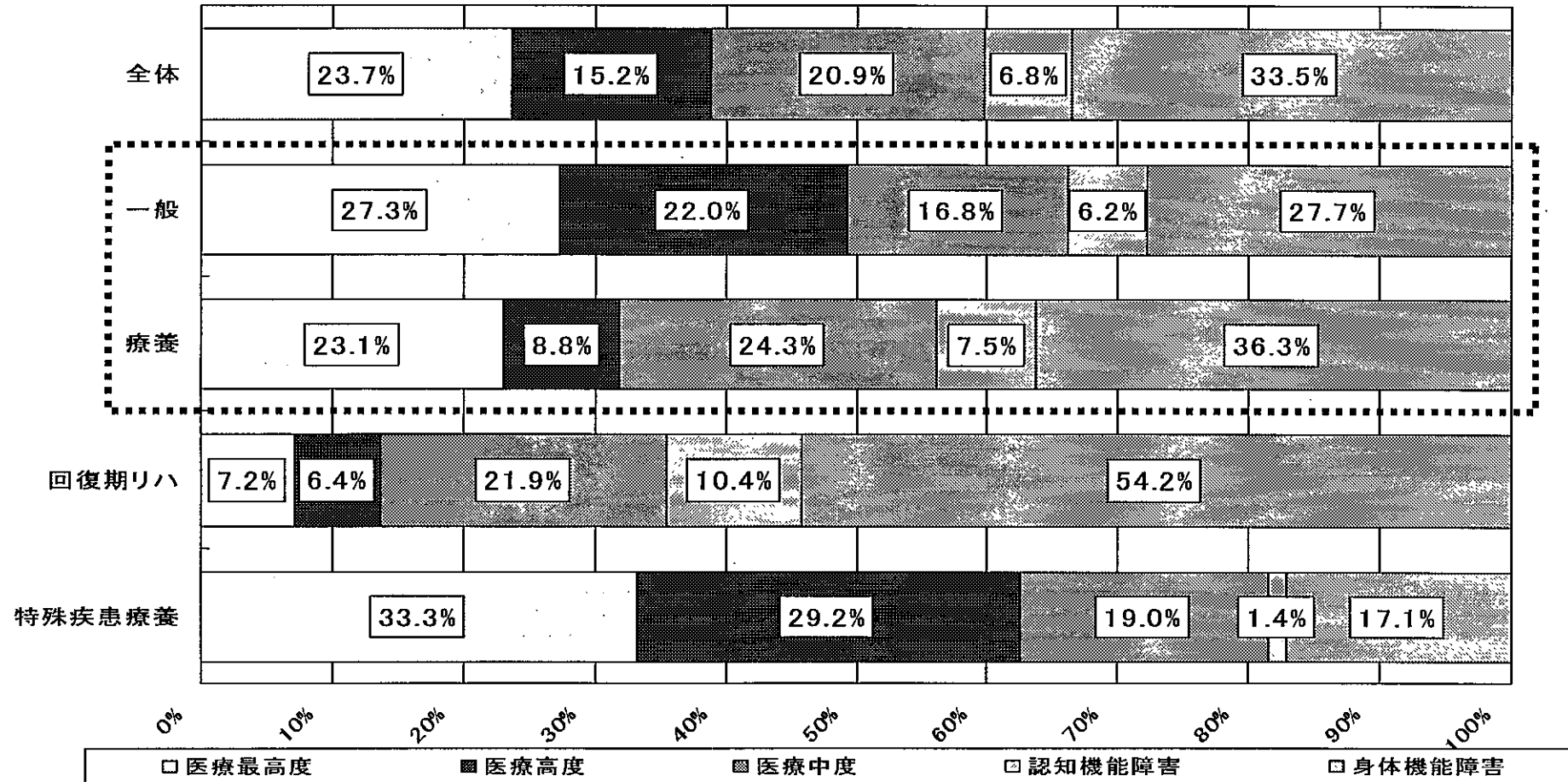


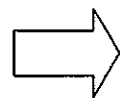
患者特性に応じた入院医療の提供

病棟種別の日本版RUG分類の構成

出典:健保連「急性期以外の入院医療に対する新しい支払い方式」平成16年3月



- 一般病床と療養病床の患者構造は同質的で、病床間の機能分化ができていない

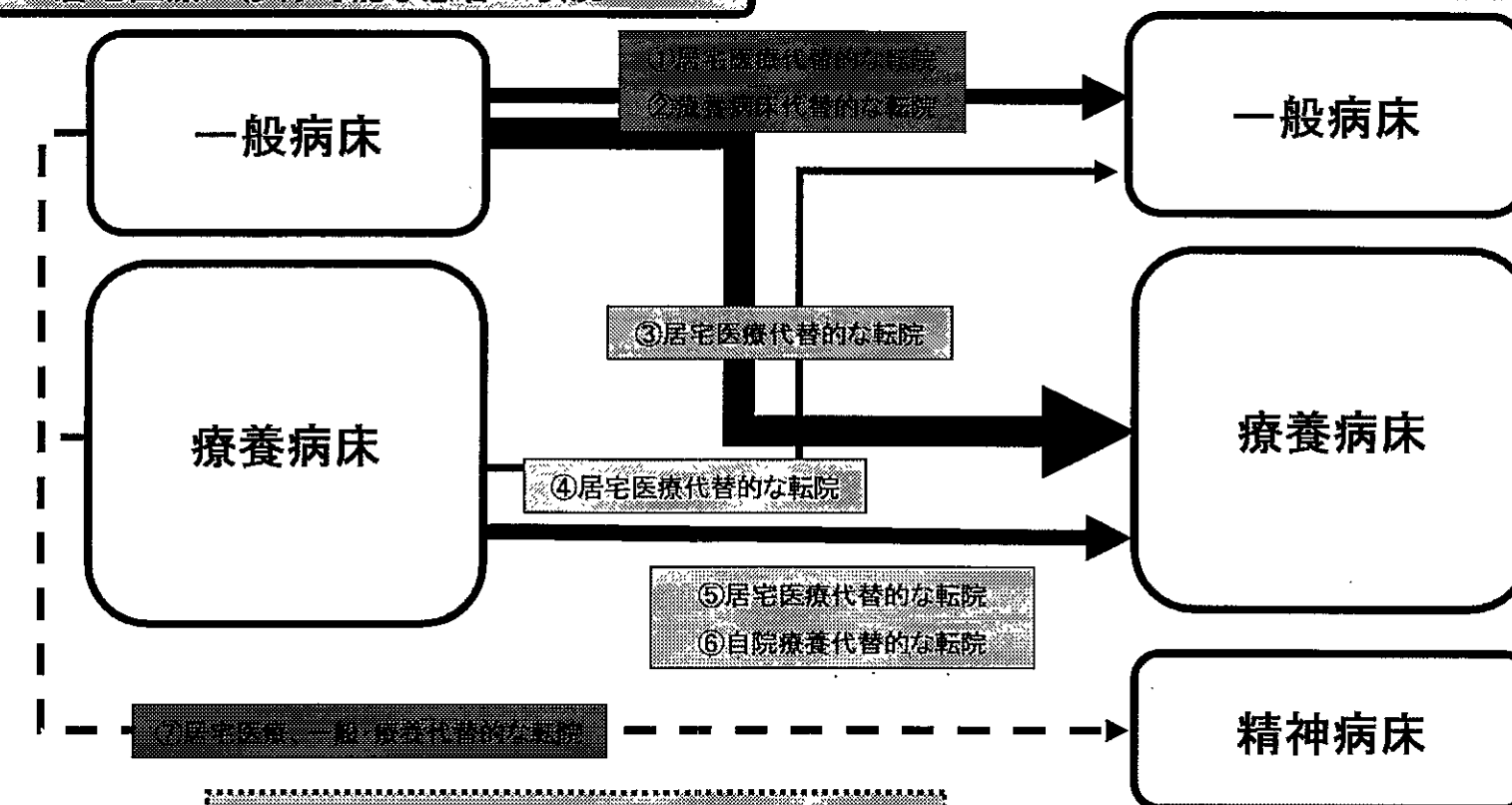


急性期以外の一般病床にも患者分類を用いた包括評価を拡大するとともに、一般病床のあり方についても検討すべき。

居宅医療の推進と医療連携体制の構築

居宅医療に移行可能な患者の状況

出典: 健保連「良質な高齢者医療&ケアを実現する体制に関する研究報告書」(暫定版)平成19年



居宅医療に移行可能な患者数(①+③+④+⑤)

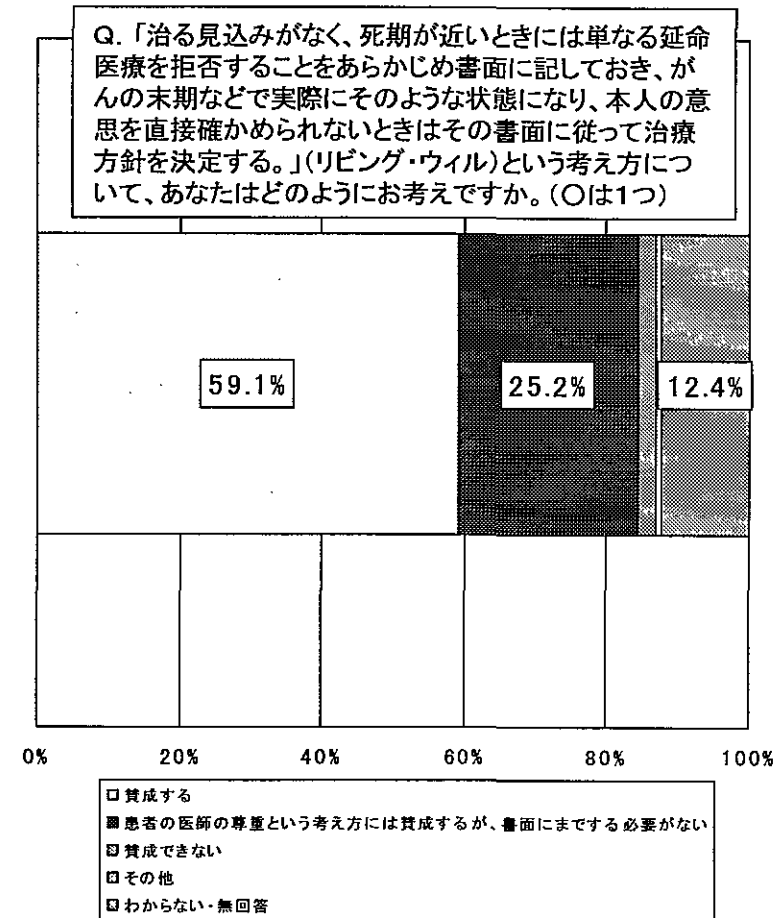
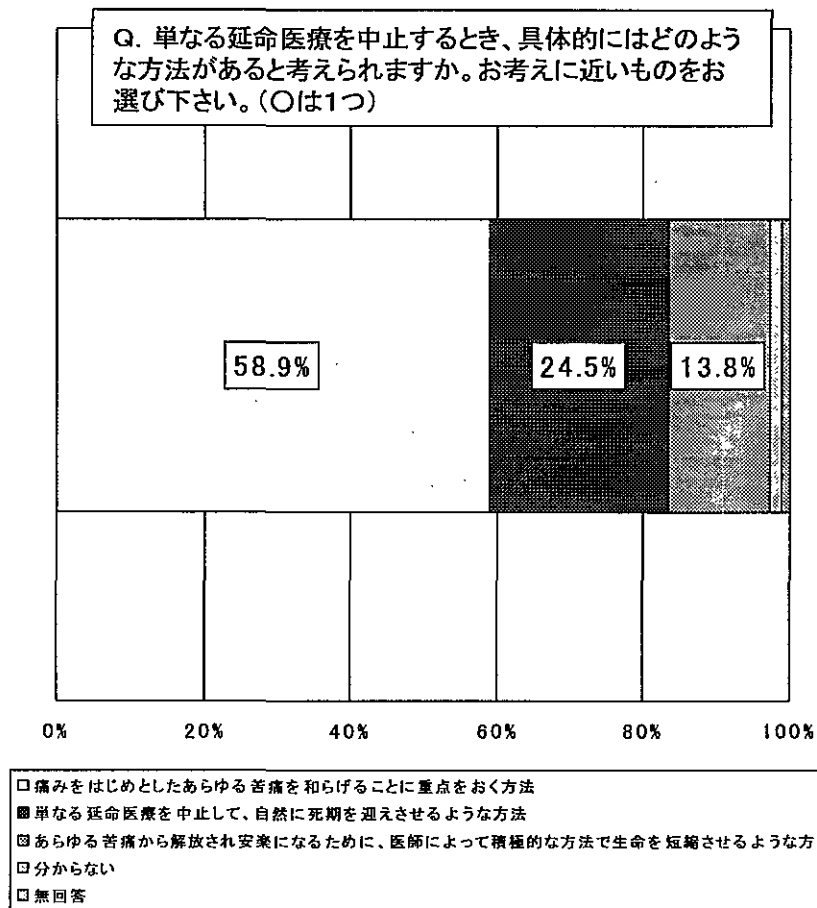
年間約73.4万人

※精神病床除く・推計値(暫定値)

※居宅とは自宅・居住系施設に老人保健施設・特別養護老人ホームを含む

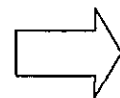
高齢者向け専用住宅などの居住系施設の整備を促進すべき。
往診や訪問診療、訪問看護等の充実をはかるべき。
医師・看護師による退院時の患者への指導、他の医療機関や介護事業者等との連携について適切に評価すべき。

終末期医療への対応



- 終末期の緩和ケアを重視する意見が過半数(58.9%)
- 終末期の患者の意思表示としてリビング・ウィルに賛成する意見が過半数(59.1%)

出典:厚生労働省「終末期医療に関する調査等検討会報告書」平成16年7月

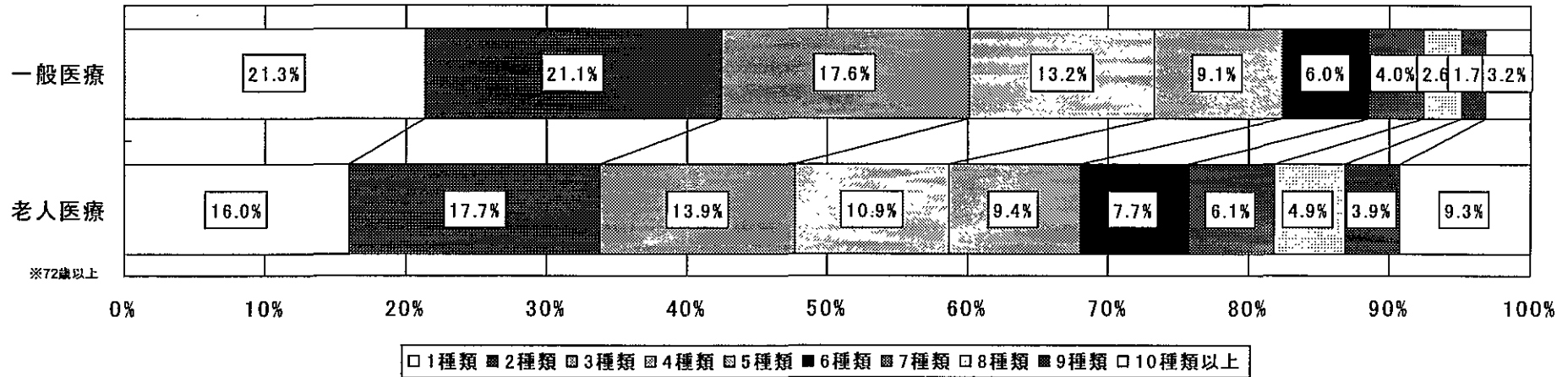


終末期医療は患者の尊厳・選択を重視すべき。
医療機関・居宅における緩和ケアを適切に評価すべき。

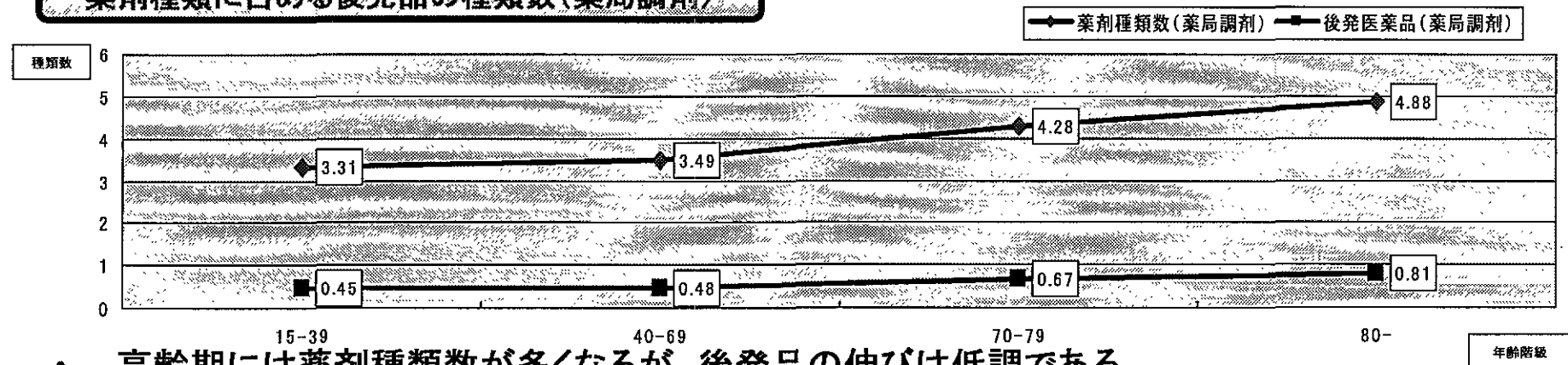
薬剤給付の適正化

高齢者の薬剤種類数の状況(薬局調剤)

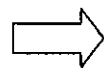
出典:厚生労働省大臣官房統計情報部「社会医療診療行為別調査」平成17年



薬剤種類に占める後発品の種類数(薬局調剤)



- 高齢期には薬剤種類数が多くなるが、後発品の伸びは低調である

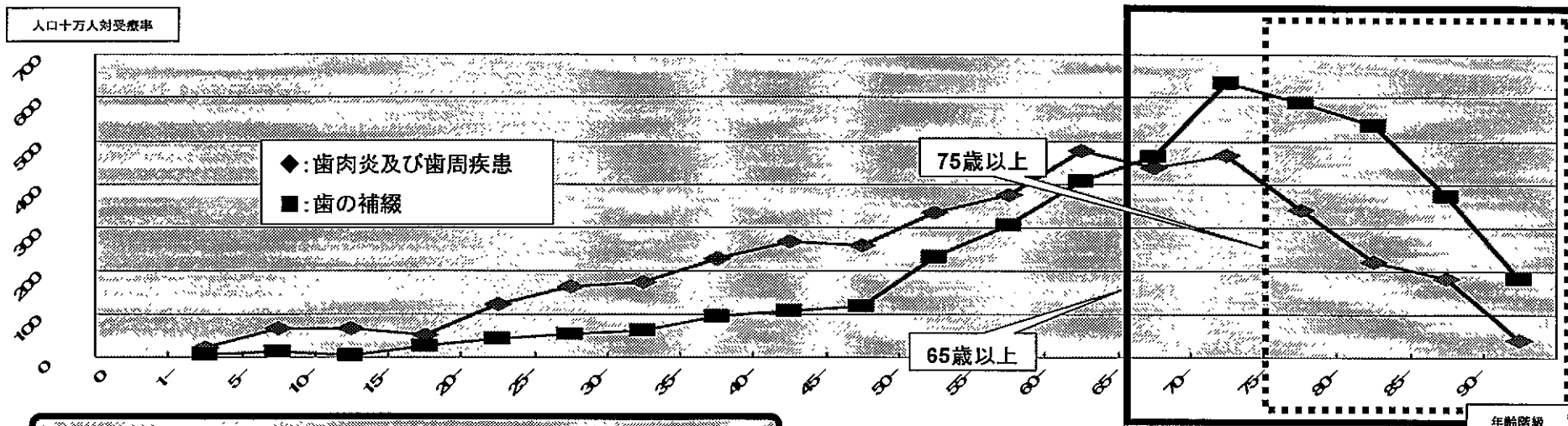


処方せん様式をさらに見直すべき(原則「後発品」)。薬担規則に後発品調剤の努力規定を盛り込むべき。

歯科医療における口腔ケア・予防の充実

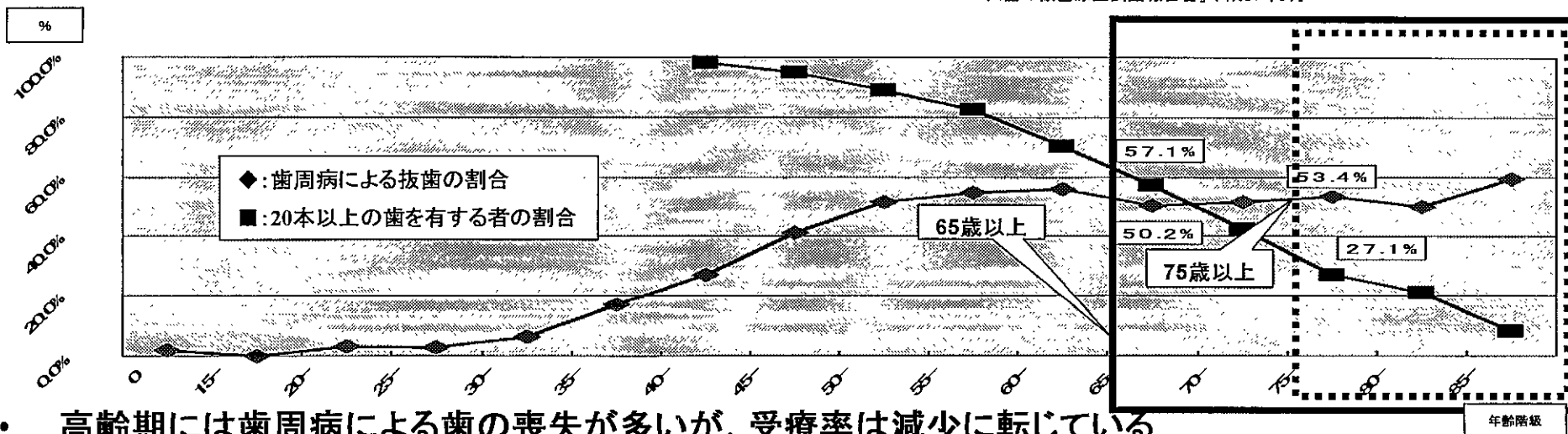
高齢者の受療状況(歯科)

出典:厚生労働省大臣官房統計情報部「患者調査」平成17年

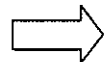


歯周病による抜歯と20本以上の歯を有する者の割合

出典:厚生労働省「歯疾患失態調査」平成17年/財団法人8020推進財団「永久歯の抜歯原因調査報告書」平成17年3月



- 高年齢期には歯周病による歯の喪失が多いが、受療率は減少に転じている



口腔清掃、義歯等の調整などの口腔ケアを評価すべき。
中高年期を対象に歯科保健対策をさらに推進、強化すべき。